

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
小平・鬼鹿地区

平成30年7月

北海道小平町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	ゆったりかん周辺施設利用者数	人/年	81,400	89,000	78,355	確定 ● 見込み	×	あり なし ●	75,304	H30年4月	×	近隣施設の団体利用(学校等)数が減ったことにより利用者数の減に繋がった。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	昨年より評価値を下回る結果となったが、今後はイベント利用を含めた広場利用者の増大が期待でき、併せて周辺施設利用者数の増加が期待できる。
指標2	道の駅周辺施設利用者数	人/年	66,034	72,000	115,538	確定 ● 見込み	○	あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新しい道の駅の効果が予想以上の利用者増に繋がった。
指標3	観光・交流施設利用者の満足度	%	63	70	86.9	確定 ● 見込み	○	あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新しい道の駅の効果が特に高く目標達成に繋がった。
指標4						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	観光・交流人口増大のための環境づくり	整備された施設及び周辺施設の適正な管理運営	観光シーズン中の週末の悪天候等の影響もあり海水浴場等の利用者数の減が影響した中、町全体の年間の観光入込数を整備した道の駅などで補うことができた。	今後も引き続き適正な管理運営及び情報発信が必要であり、今後も毎年度利用者数調査を行い周辺施設を含めた利用者数の拡大を図る。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	ゆったりかん周辺施設利用者数	整備された施設及び周辺施設の適正な管理運営	工事期間や周辺施設の利用状況により一時的に周辺施設全体での利用者数の減に繋がったが、広場での事業実施や問合せがあり、今後は広場利用を含めた周辺施設利用者の増加が期待できる。	今後も引き続き適正な管理運営及び情報発信が必要であり、広場を含めた周辺施設利用促進を引き続き行っていく。また毎年度利用者数調査を行い周辺施設を含めた利用者数の拡大を図る。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
広場含めた周辺施設利用促進PR	HPや周辺施設各種情報発信はもちろんのこと、イベント等の実施状況等も新聞・広報誌等含めた情報発信することにより、今後の利用者増に繋げる。	平成30年4月～	毎年度利用者数調査を行い周辺施設を含めた利用者数の拡大を図る。

都市再生整備計画(精算報告)

おびら おにしか
小平・鬼鹿地区

ほっかいどう おびらちょう
北海道 小平町

・様式は、A4印刷とすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

ほっかいどう 北海道	ほっかいどう 北海道	市町村名	おびらちよう 小平町	地区名	おびら おにしかちく 小平・鬼鹿地区	面積	26.5 ha				
計画期間	平成	24 年度	～	平成	28 年度	交付期間	平成	24 年度	～	平成	28 年度

目標 大目標:小平町の特性や資源を活かした地域づくりの実現 目標1:既存観光・交流施設と自然環境を活かした地域資源の再編による交流の促進 目標2:まちの歴史・文化を守り育むための次世代への継承 目標3:基幹産業の振興に向けた観光・交流施設の機能・利便性の向上
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>・小平町は、道北地域留萌振興局管内の南部に位置しており、農業と漁業を基幹産業とし、農業においては「アイポリーメロン」の道内唯一の生産地であるとともに、漁業ではホタテの稚貝や半生貝の出荷が当町の水産業における生産額の大部分を占めている。</p> <p>・小平町の歴史は、寛永12年に松前藩漁業請負人が臼谷及び広富において鯉、鮭漁を営んだことが和人定住の始まりと伝えられている。その後、大正8年7月に留萌町より小平薬村が独立し二級町村が施行され、昭和23年1月に小平村と改称され、昭和31年9月鬼鹿村を廃止して小平村に編入し、昭和41年9月に町制施行により小平町となり現在に至っている。また、小平町の人口の推移は、昭和25年の17,047人を頂点として、以来鯉漁衰退や炭鉱閉山等により減少傾向をたどり、平成23年12月末現在での人口は3,640人となっている。</p> <p>・小平町は上記のとおり合併町のため、小平地域と鬼鹿地域において2つの市街地が形成されており、観光施設等の拠点的な施設の整備状況において、それぞれ異なった特色を有している。</p> <p>・本計画区域は稚内市を起点とし留萌市を終点とする日本海沿いの国道232号に面しており、計画区域内及び周辺の施設としては、小平地区において、小平町総合交流ターミナル施設「ゆったりかん」、「望洋台キャンプ場」、「海洋スポーツ施設」、都市農村交流施設「ゆうゆうそう」などの観光施設が集積しており、鬼鹿地区には日本最北端の重要文化財「旧花田家番屋」が道の駅と隣接し、日本海オロロンラインにおける休憩と観光ポイントとして、その役割を充分に発揮している。</p>
課題 <p>・国道232号のルート変更により、小平地区における各観光・交流施設の国道からの視認性やアクセス性が低下したことに加え、国道ルートの変更によって生じた未利用地によって当地区の眺望景観が阻害されている。</p> <p>・本計画区域内の既存施設に収集・保存された郷土資料や埋蔵文化財資料は、後世にまちの歴史や文化を伝えるうえで重要な資産であるが、施設の老朽化による保存環境の悪化により貴重な資料が劣化する恐れがあることから、その保存方法を早急に検討しなければならない。</p> <p>・電線等の撤去による重要文化財「旧花田家番屋」周辺の景観向上についての要望が、多くの観光客から寄せられている。</p> <p>・観光・交流の促進にあたっては、地域資源を活かした小平地区と鬼鹿地区相互の役割分担による連携強化が必要である。</p> <p>・基幹産業である農漁業の振興に向け、単に生産し一部直売するのみならず、付加価値を高めるための「6次産業化」に取り組む場の提供が必要である。</p>
将来ビジョン(中長期) <p>・平成20年度から平成29年度を計画期間とした、「小平町新総合計画」では、町を縦貫している国道232号と整備中の高規格幹線道路深川・留萌自動車道との連携による旧花田家番屋周辺の環境整備や、ゆったりかん前の大規模未利用地における環境整備、並びに国道232号沿いの景観向上が掲げられている。また、歴史的な文化財資料の保存を行う施設の整備、重要文化財等施設の計画的な補修、整備が位置づけられている。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
ゆったりかん周辺施設利用者数	人/年	ゆったりかん、パークゴルフ場等利用者数	緑地・広場等の周辺環境の整備により、国道通過客や地域住民が集うやすらぎ空間を創出し、交流の促進を目指す。	81,400	平成23年度	89,000	平成28年度
道の駅周辺施設利用者数	人/年	道の駅及び重要文化財旧花田家番屋の利用者数	旧花田家番屋と連携した観光交流センター新築及び周辺環境整備により、歴史・文化を学び・体験する機会の増加を目指す。	66,034	平成23年度	72,000	平成28年度
観光・交流施設利用者の満足度	%	アンケートによる本計画区域内施設利用者の意見	計画区域内における施設利用者の満足度の変化により、各目標の達成度を総合的に評価する。	63	平成24年度	70	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】既存観光・交流施設と自然環境を活かした地域資源の再編による交流の促進</p> <p>・大規模未利用地の緑化、並びにアクセス道路の整備等、既存施設と一体となった景観や利便性の向上により、来訪者の増加を図るとともに、町民のコミュニティ活動を促進する。</p>	<p>【基幹事業】 道路事業(町道新設、改良)、地域生活基盤施設(緑地、広場、情報板)、高次都市施設(観光交流センター)</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業(歴史文化保存センター、電線類裏側配線)、まちづくり活動推進事業(地域産苗育成)</p> <p>【関連事業】 既存駐車場整備、イベント広場整備、EV充電設備、番屋前整備、販売ブース設置、イルミネーション設置</p>
<p>【整備方針2】まちの歴史・文化を守り育むための次世代への継承</p> <p>・重要文化財を中心とした資料収蔵施設の機能充実や周辺環境の整備により、大人から子どもまでが小平町の歴史や文化を学び・体験し郷土愛を育む場を創出する。</p>	<p>【基幹事業】 高次都市施設(観光交流センター)</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業(歴史文化保存センター)</p> <p>【関連事業】 ポンプ室移転</p>
<p>【整備方針3】基幹産業の振興に向けた観光・交流施設の機能・利便性の向上</p> <p>・基幹産業の振興を図るため、小平地区における体験観光を主眼とした都市農村交流施設「ゆうゆうそう」の利用に係る利便性の向上、並びに鬼鹿地区における食材供給施設と一体となった地場産品に係る新たな情報発信施設の整備を行う。</p>	<p>【基幹事業】 道路事業(町道新設、改良)、高次都市施設(観光交流センター)</p> <p>【関連事業】 既存駐車場整備</p>

その他

●計画策定に係る住民との合意形成

小平町新総合計画策定の際、全町民を対象としたアンケート調査を実施し、今後のまちづくりにおいてゆったりかん周辺の環境整備は必要施策として多くの住民から意見が寄せられた。また、小平町の貴重な歴史資料保存に関しては、小平町文化財審議会から現施設の老朽化にともなうカビや乾燥による資料の劣化についての指摘を受け、新たな施設の設置による早急な対応の必要性が提示された。町の諮問機関である、「小平町開発審議会」においても歴史資料保存施設の建設に係る基本計画について議論され承認を得ている。

●産物の特産品化を進める新たな施策

町の優れた農産品、水産品等の産物の活用により、食の新たな魅力と産業の担い手を発掘・育成し、これを町の資源・魅力として広く周知するため、平成24年度に新たな取り組みとして、「小平町地域産業イノベーション事業」(調査事業)を行い、町民の協働参画を目指す施策を模索する。

●事業終了後の継続的な町づくり活動

事業終了後の効果の持続にあたっては、ハード事業のみならず、人材の育成やそれを育む環境づくりが必要であることから、町内の各産業団体との連携をより一層強化していく。

●関係機関との連携

道の駅のトイレは国土交通省が設置したものであるとともに、旧国道用地の利活用についての検討が必要なことから、本計画の策定にあたっては平成22年度～平成23年度の2ヶ年において、留萌開発建設部や独立行政法人寒地土木研究所との協議を重ねており、本計画における事業の推進にあたって継続的な連携を図り、よりいっそうの事業効果発現を目指す事とする。

